

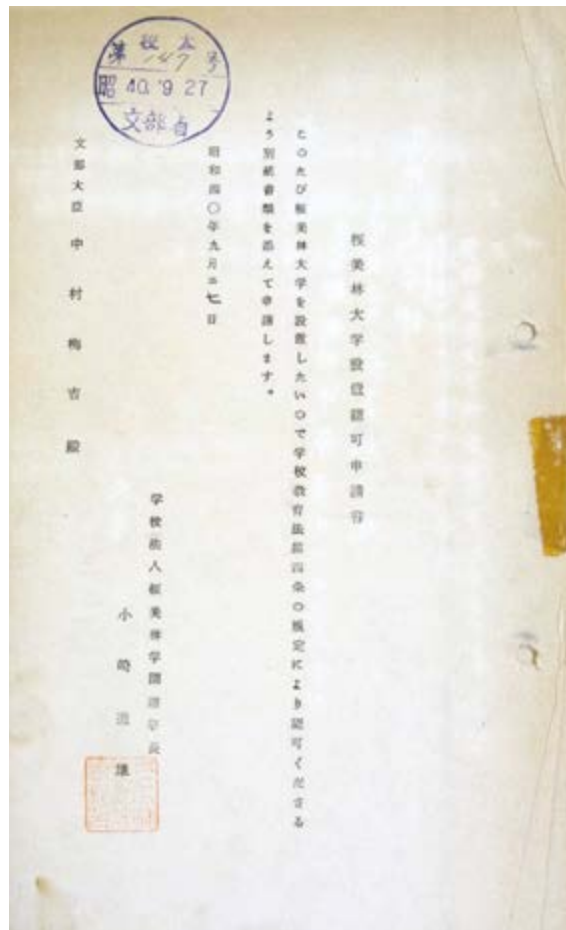
V-3

桜美林短大・大学・大学院
大学・大学院

念願の大学設置認可

大学の設立は安三が中国で教育事業に着手する頃からの積年の夢であった。1960年代に入るとその機運が高まり、校地・校舎の確保、図書の収集、基本金の用意に安三は奔走した。『復活の丘』で安三は「皆さん、私が死んでも香典、花料、花輪、何んにもいりません。その代りに今、ドウカ金一封を下さい。『御霊前に』よりも『御眼前に』の方がうれしいです」とユーモアを交えつつも必死に寄附を訴えた。

1966年1月、念願叶って桜美林大学文学部（英語英米文学科、中国語中国文学科）の設置認可を得た。初代学長および初代文学部長は安三であった。認可の内示を受けた日、全学園の中・高・短大生、教職員がグラウンドに集って安三を胴上げ、万歳三唱をして大学の誕生を祝った。悔やまれるのは、崇貞学園の発展に寄与し、桜美林の教育事業をマネジメントしてきた郁子が1964年6月24日、71歳で召天し、この場にいないことだった。生前の一張羅を身に付けた等身大の郁子人形を女生徒たちが胴上げしたのは、大学設立に至る道のりにおいて郁子の働きが不可欠であったことを物語っている。



■ 桜美林大学設置認可申請書（1965年9月27日）
学校法人桜美林学園理事長 小崎道雄による文部大臣あて設置認可申請書。
（国立公文書館所蔵）



■ 大学設立を祝って（1965年12月27日）
文部省より認可の内示を得た1965年12月27日、学園全体で大学設立を祝った。高校生が手折った千羽鶴のレイを首に飾った安三と紙の張りぼて人形の郁子。



■ 胴上げされる安三（1965年12月27日）
胴上げの後、桜美林大学万歳を唱え、一同は復活の丘によって十字架の下で感謝祈禱会を開いた。



■ 宿願達成の喜びを記念する安三の歌碑
「夢 大学の設立こそは少(わか)き日に新島襄に享(う)けし夢かも」。
文部省の内示を受けて学生、教職員がグラウンドに集合した際に安三が詠んだ歌。



■ 太平荘前で語らう女学生たち
1965年12月、大学女子寮として太平荘が落成。この月末に文部省から認可の内示があった。



■ 一畝園（1965年）
1965年、中文教室として「一畝園」竣工。この頃、大学設立にむけて大学用の時習館（図書館）、大学研究室などが作られた。



■ 学園創立20周年の式典と記念事業（1966年11月23日）
左：学園創立20周年式典を盛大に挙行。中国服姿で式辞を述べる安三。
上：記念事業として体育館が竣工。

V-3

桜美林短大・大学・大学院
大学・大学院

4学部の大学へ——文学部

1966年4月、桜美林大学文学部（英語英米文学科・中国語中国文学科）が開設し、第1期生を迎えた。学園の理念に沿って、アジアとの架け橋、環太平洋との架け橋となる国際的人材の育成を願っての設立であり、安三は『復活の丘』第77号（1966年）で、「新設の4年制大学のスベリ出しは上々」と記している。英語英米文学科・中国語中国文学科では、それぞれ英文学会、中国学会を立ち上げ、学会活動を展開した。

そして2000年4月、文学部に言語コミュニケーション学科、健康心理学科、総合文化学科の3学科を増設した。3学科は、現代社会の中でよりよく自己表現し、他者とのコミュニケーション能力を育成し、社会の矛盾や課題に取り組み、平和な手段により問題解決を図れる人材の育成を目標として設置された。



■文学部第1期生入学式（上・右上、1966年4月15日）
第1期生は英文科142名、中文科77名、合計219名。同年の桜美林学園在学生数は計2,681名。入学式はチャペルで挙行された。



学生募集

新設 桜美林大学

文学部 英語英米文学科 40名
中国語中国文学科 40名

桜美林短期大学

英語英文科 100名
家政科 100名

推薦入学 1月24日～3月19日
試験入学 3月22日～4月6日
詳細は入学案内（定費100円）参照

桜美林学園

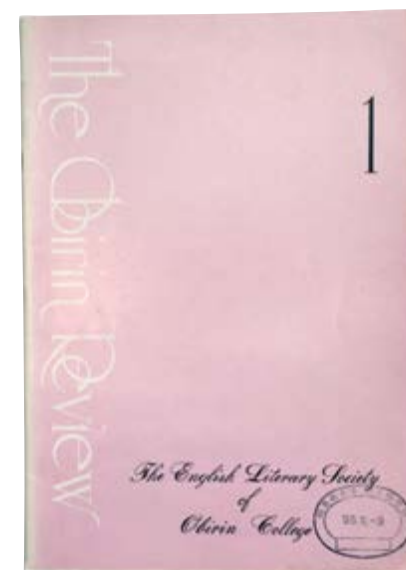
併設校
桜美林中学校
桜美林高等学校
寮完備

東京都町田市矢部町2693 TEL(0427)22-2159
2134
（小田急線新町田駅下車 スクールバスあり）
横浜線溝野駅下車

■桜美林大学第1期生募集ポスター
文学部（英語英米文学科40名、中国語中国文学科40名）合計80名の学生募集から始まった。



■校内にある学会探訪「英文学会」（1991年12月25日）
英文学会は学科創立と同時期頃に発足し、英字新聞発行に情熱を傾けた。
（『桜美林大学だより』第57号）



■『THE OBIRIN REVIEW』（1977年1月）
英文学会の学会誌の創刊号。巻頭言は清水安三が寄稿。



■校内にある学会探訪「中国学会」（1992年3月5日）
中国学会では、卒論優秀者による卒業論文発表、中国語弁論大会入賞者スピーチ等の活動をしている。
（『桜美林大学だより』第58号）



■『中国学会報』創刊号（1994年3月）
中国学会発行の学会誌で創刊号。第8回学会大会終了後に発刊された。



■『中国文学論叢』第1号（1968年3月）
2002年の第27号まで発刊された。



■第1回卒業式（1970年3月）
文学部の第1回卒業式が挙行された。

V-3

桜美林短大・大学・大学院
大学・大学院

4学部の大学へ——経済学部と経営政策学部

1968年3月15日に経済学部経済学科が設置認可され、同年4月より開設した。そして1972年には同学部に商学科を増設し、2学科となった。この頃、安三は「英経、中経とでも称すべき英語を特技とし、あるいは中国語を利腕として、太平洋沿岸の諸国の間に雄飛活躍する経済人ビジネスマンを養成しよう」（『復活の丘』第82号、1967年）と考えており、国際的人材の育成という明確な目標があった。大学の規模は拡大し、1973年の学生数は、大学2学部4学科で2,272名となった（『復活の丘』第105号、1973年）。

1997年4月、経営政策学部ビジネスマネジメント学科が開設され、4学部の構成となった。設立の趣旨には、利益第一主義ではなく、倫理観や相互扶助の精神を備えた認識に基盤におくビジネス教育を志すような教育の場が必要との訴えがこめられていた。なお、同学部の新設により、経済学部の商学科は閉鎖した。



■ 経済学部正式認可（1968年3月15日）
経済学部の設置認可が下り、「郁さん人形」とともに祝う清水安三。



■ 経済学部の増設が認可（1968年3月15日）
経済学部の増設が認可され、学園は花火をあげ提灯行列をして祝った。



■ 『桜美林エコミックス』第2号（1973年4月）
経済学部が発行した紀要の第2号。



■ 学内にある学会探訪「経済学会」（1997年7月25日）
経済学会は1973年に発足し、講演会や機関誌の発行を行った。（『桜美林大学だより』第60号）



■ 経営政策学部設置が認可（1996年12月20日）
経営政策学部ビジネスマネジメント学科が開設され、4学部目が誕生、経済学部の商学科は募集停止。（『桜美林大学だより』第90号）



■ 大学卒業式（1972年3月）
経済学部の第1期生が卒業していった。



■ 経済学部創設20周年記念シンポジウム（1989年4月28日）
徳望館4階のAV教室に本学教職員、OB、学生らが集い、第1部は教育問題、第2部は制度問題について討論が行われた。（『桜美林大学だより』第43号）

V-3

桜美林短大・大学・大学院
大学・大学院

4学部の大学へ——国際学部

1988年12月22日、国際学部国際学科が設置認可され、翌89年4月に開設された。学部設置の趣意は、「ますます国際化する世界動向のなかで、グローバルな視点に立って教育や研究、実践のなかから、この情勢に正しい客観的判断を下す能力を備えた人材を育成」することを掲げている（『桜美林大学だより』第36号、1987年）。同学部のカリキュラムはコアカリキュラムとして、地域研究、国際関係学、比較文化学の3つを設け、さらに5つのコースの専門分野に進む構成で組織された。

また、帰国子女や留学生の受け入れ、外国の大学への在籍留学などの取り組みを計画し、学内外での教育経験によって、異文化に対する理解と尊重の精神、国際社会での幅広い見識と行動の育成を目標としたカリキュラム構成が試みられた。新学部の設置により、本学はそれまでの専門学部によって構成された総合大学から教養学部を含む総合大学となった。



■「国際学部の設置、正式に認可」の記事（1989年2月10日）
国際学部棟の建設が急ピッチで進められている。
（『桜美林大学だより』第41号）



■国際学部棟「徳望館」・研究棟竣工披露宴（1989年4月）
新学部棟は1988年6月にアロハ寮跡地で新築工事起工式を行い、翌89年4月、地下1階、地上4階建ての国際学部棟（徳望館）・研究棟が完成し、披露宴が行われた。

■ルコネッサンス・ジャパン・プログラム
参加留学生来校（1996年9月30日）
英語圏の留学生が国際学部の日本研究コースに入り1年間にわたり学習した。
（『桜美林大学だより』第88号）



■国際学会の学会誌『JAM』創刊号（1991年）
会誌名は「ジャムセッションなどと使われるようにみんなで参加して楽しめたら、という思い」（巻頭言）で付けられた。



■学内にある学会探訪「国際学会」（1992年10月5日）
1990年、国際学部は国際学会を設立し、学会活動を進めた。
（『桜美林大学だより』第61号）



■国際学会と英文学会、相次ぎ講演会（1993年6月10日）
国際学会は荒木晶子助教授（当時）による「コミュニケーションとは何か」、英文学会ウィリアム・ミラー氏による「Writers and Society」の各講演会。
（『桜美林大学だより』第65号）



■米国留学生、日本文化を学ぶ（1997年9月25日）
夏期セミナーで来日した米国留学生12人が日本語や日本文化研究のプログラムに参加した。
（『桜美林大学だより』第95号）

■授業風景(左右とも1994年6月)



V-3

桜美林短大・大学・大学院
大学・大学院

大学院の設置——大学院

1993年3月、大学院国際学研究科修士課程の設立が認可され、同年4月に開設された。その設立の趣旨は、「本大学院は、独創的な課題発想能力や諸問題解決のための高度な実践的能力の修得とともに、広い見識と国際的教養の涵養に務めることを目的とし、高度な学術研究者の育成とは一線を画した」と表明しており、研究的な大学院ではなく、学際的で高度な専門的職業人の育成を中心とする大学院を目指した。

1995年には国際学研究科博士後期課程を開設し、当時の3学部の各専門領域を包括した学際型の大学院として構想した。2001年、国際学研究科に大学アドミニストレーション専攻、言語教育専攻を開設し、02年、同研究科に人間科学専攻修士課程、老年学専攻修士課程を増設し、日本の大学院初となる健康心理学専修を設置した。2008年には、大学院に老年学研究科、大学アドミニストレーション研究科を開設し、09年には、大学院に経営学研究科・心理学研究科・言語教育研究科を開設した。

そして2021年には、大学院の既存の6研究科を国際学術研究科に統合し、学位プログラム制を導入した。



■ 大学院研究科紀要 7 誌

左奥より、『心理学研究』『言語教育研究』『桜美林経営研究』、左手前より『老年学雑誌』『大学アドミニストレーション研究』『国際学研究』創刊号（すべて2011年）『桜美林シナジー』（創刊号、2003年）。



■ 国際学研究科紀要『桜美林国際学論集 Magis』

創刊号（1996年）と第3号（1998年）。雑誌名は、学生紀要編集委員会が「精神的な支えとなるものがよい」とのことでラテン語から採った。サイズは第3号よりB5判となった。



■ 老年学専攻・臨床心理学専修・健康心理学専修 学生募集ポスター（2001年）

■ 「大学院国際学研究科の第1回入学式」の記事（1993年6月10日）
（『桜美林大学だより』第65号）

■ 心理学フェア（2013年9月21日）

大学院心理学研究科心理学専攻主催（健康心理福祉研究所共催）のワークショップの様子（明々館810号室）。



■ 経営学研究科の授業風景（2019年8月9日）

■ 大学院学位授与式（2004年3月17日）
国際学研究科老年学専攻修士を学位授与式後に撮影。東京国際フォーラムにて。■ 大学院博士後期課程の第1回入学式（1995年4月26日）
初の入学式を太平館8階ラウンジで行った（志願者9名のうち7名受験、3名が合格・入学）。

V-3

桜美林短大・大学・大学院
大学・大学院

学部から学群へ——総合文化学群から芸術文化学群へ

2004年より、これまでの4学部8学科体制の学士課程から目的別教育プログラムに再編するクラスターカレッジ（「学群」）への全学改組に取り組んだ。これにより、文学部に2000年に増設された「総合文化学科」は、05年、「総合文化学群」へと独立。当初、「演劇専修」、「音楽専修」、「造形デザイン専修」の3専修で構成されていたが、2007年、「映画専修」が加わった。どの専修も幅広い教養を身につけながら、実技・実習を重視するプロフェッショナル教育を行うことが特徴である。

2013年、名称を「芸術文化学群」に変更。2017年には定員を250名から400名に増やし、「造形デザイン専修」と「映画専修」を「ビジュアル・アーツ専修」に統合、「演劇専修」は「演劇・ダンス専修」に名称変更した。

2020年4月からは新たに開設した「東京ひなたやまキャンパス」に移転、22年には本格的な劇場やコンサートホールを有する「桜美林芸術文化ホール」が敷地内に開館する。



■ 京劇公演（2004年12月）
「東洋演劇演習」で、日本の大学生として初めて京劇を公演（プルヌスホール）。



■ トランペットとオルガン履修生によるコンサート
（2013年11月18日）
アドベント（待降節）にあたり開催（荊冠堂）。



■ 群読音楽劇「銀河鉄道の夜2017」
（2017年9月13-16日）
学生と市民とプロのアーティストが共演。2007年以来毎年開催。「令和2年度児童福祉文化賞」受賞（プルヌスホール）。（『OBIRINER』No.42）



■ 映画制作の実習の様子（2008年）
映画専修の学生による撮影の様子。学内のコンビニでのロケ。（『OBIRINER』No.24）



■ 「フィガロの結婚」（2014年11月26日）
音楽専修・声楽ゼミオペラ公演（サレンバーガー館）。



■ ビジュアル・アーツ専修のデザイン・プロジェクト授業の発表（2019年6月26日）
町田市役所において開催された海洋プラスチックごみ・光アート帰国報告展。



■ 造形デザイン専修学生の黒板アート制作の様子
（2016年2月1日）
百貨店のディスプレイのため制作。



■ 総合文化学群への改組の新聞広告（2005年）
写真は藤崎いづみ教授。



■ ダンス OPAP 公演
「2012 ピュア魂」（2012年11月）
選抜された31名の演劇専修学生によるダンス公演（プルヌスホール）。（『OBIRINER』No.32）

V-3

桜美林短大・大学・大学院
大学・大学院

学部から学群へ——ビジネスマネジメント学群と航空・マネジメント学群

2006年、幅広い職業人養成の機能に重点をおくビジネスマネジメント学群ビジネスマネジメント学類を開設（08年に同学群アビエーションマネジメント学類を増設）。既存の経営政策学部ビジネスマネージメント学科の教員組織をもとに、ツーリズム・ホテル・エンターテインメント、流通・マーケティング、グローバル・ビジネス、IT・ビジネスの4領域に教育課程を集約再編して開設した。これに伴い、同学科は2006年度に募集停止、3年次編入学は08年度をもって募集停止とすることを届け出た。その後、2019年4月に新宿キャンパスを開設し、移転。

また、2020年4月には航空・マネジメント学群を多摩アカデミーヒルズ（多摩キャンパス）に開設し、航空業界における航空管制、整備管理、空港マネジメント、パイロットの4領域での航空人材の育成を目的とした。ここに全6学群の構成となった。



■ 2015年度BM桜美林会（2015年7月11日）
2007年度に発足し、卒業生と在学生、教員の学びと交流の場となっている（町田キャンパス）。



■ ビジネスマネジメント学群開設（2005年12月18日）
全国紙に掲載された、2006年4月ビジネスマネジメント学群開設の広告。



■ カナダの大学におけるツーリズムの授業風景（2008年9-11月）
キャビンアテンダントコース1期生の2年生21名が、カナダの大学で15週間、英語やツーリズムについて学んだ。
（『OBIRINER』No.21）



■ オープンキャンパス個別指導（2019年3月10日）
新宿キャンパスにて。



■ 新宿キャンパス第1回大学祭（左右とも2019年11月10日）



■ アリゾナでの全試験を終えた学生たち（2011年）
フライト・オペレーションコースの1期生17名が、約2年間の飛行訓練を行った。
（『OBIRINER』No.29）



■ 桜美林大学飛行訓練センター（2019年）
アメリカ合衆国アリゾナ州メサにあるファルコン・フィールド空港内。

V-3

桜美林短大・大学・大学院
大学・大学院

学部から学群へ——健康福祉学群

2006年、幅広い職業人養成の機能に重点を置く健康福祉学群を開設した。健康福祉学群は、文学部健康心理学科の健康科学コースの科目と教員組織、精神保健福祉コースの科目と教員組織、経営政策学部ビジネスマネジメント学科の社会福祉マネジメントコースの科目と教員組織を合わせた上、保育士養成関連科目と教員を補充し、統合した教育組織として整備して開設した。

本学群は、健康科学・社会福祉・精神保健福祉・保育の4専修で構成されており、乳幼児から高齢者まで、すべてのライフステージにおける健康と福祉に関する知識と技術を総合的に学んだ上で、現場に必要な資格を持ち、さまざまな分野で活躍できる人材を育成することを目的とした。2018年4月には、国家資格「公認心理師」取得のためのプログラムを設置し、入学定員も300名まで増員された。



■ 第1回けんぷく食堂 (2020年2月8日)

健康福祉学群生が子ども食堂を開催。食や遊びを通して地域の多くの人々と交流（荊冠堂前広場）。

■ 実習支援センターでの学生たちの様子 (2019年11月27日)

さまざまな専修の学生たちが共に学び、将来の対人援助職を目指す。



■ 長野・菅平高原でのスキー実習 (2018年2月)

健康科学専修の学生たちは生涯にわたってスポーツに取り組めるよう多様なスポーツ科目を通して技術を学ぶ。



■ オープンキャンパス個別相談 (2018年6月10日)

健康福祉学群ではさまざまな資格を取得できるため、それらを目指す高校生からの相談も多い。



■ 精神保健福祉専修キャリア開発シンポジウム
「福祉と心理の仕事」(2019年10月30日)

健康福祉学群の卒業生が自身の専門職としての仕事内容や就職活動を在校生に紹介。



■ パラリンピック競技種目の「ボッチャ」を体験 (2018年5月23日)

社会福祉専修教員が担当する専攻演習の授業の一場面。パラスポーツの楽しさを実感。



■ 第10回 保育フェア (2020年1月25日)

保育専修の学生が子どもたちを対象にした劇や紙芝居などの保育プログラムを企画・運営（荊冠堂地下小ホール）。

V-3

桜美林短大・大学・大学院
大学・大学院

学部から学群へ——リベラルアーツ学群

従来の「文学部」「経済学部」「国際学部」を前身とし、2007年にリベラルアーツ学群を開設した。入学定員950名、収容定員3,800名という大型の教育組織において、養成する人材については、「リベラルアーツ学群は、広範な知識と深い専門性に裏づけられた思考力、分析力、柔軟な発想力を身に付けた人間性豊かな人材の養成等を目的として、総合的教養及び専門的基礎学術に係わる教育等を行う」と定め、学生を「Independent Learner（自立した学習者）」と位置づけ、学生が個々の興味、関心、問題を自らの力で見つけ、それを考察する資質を養成することを基本理念に掲げた。そして社会科学、人文科学、自然科学の幅広い学問領域に及ぶ34の専攻プログラムと700以上の多彩な科目を提供した。

2021年4月よりカリキュラム改革を行い、人文領域、社会領域、自然領域におけるディシプリン型のプログラムと、統合領域における統合型のプログラムの4つの領域を設けた。



■ LAGO 事後学習（2019年8月1日）
春学期に留学していたLA学群2年生約100名が集い、事後学習が行われた（明々館ラウンジなど）。



■ リベラルアーツ・プレゼンテーション・コンテスト（2017年12月16日）
リベラルアーツ学群主催の第2回リベラルアーツ・プレゼンテーション・コンテスト（リベコン）が理化学館で開催。



■ 環境展示会「エコプロダクツ2012」への出展（2012年12月15日）
ECO-TOPプログラムとして、学生がインターンシップの成果を発表（東京ビッグサイト）。



■ ECO-TOP プログラム修了証授与式（2021年3月15日）
学位授与式前に修了証を授与。2021年度の認定者は11名（授与式には9名の学生が出席）。



■ 東北被災地支援活動に参加する学生の様子（2011年6月25日）
サービスラーニングセンター（SLC）が2011年4月に開設、宮城県南三陸町において、知り合いのインドカレー屋さんが実施した炊き出しに学生が参加した。
（『OBIRINER』No.29）



■ マレーシア・子どもの家・ボランティア研修（2016年8月）
マレーシアのサバ州において、不法移民の親の子どもたちが暮らす「子どもの家」敷地内の遊歩道を現地青少年と一緒に学生が整備した。



■ 博物館実習学内実習（2021年12月11日）
桜美林資料展示室のリニューアルに当たり、博物館実習（学内）「展示の実務と解説」において、学生らが展示準備を行った。



■ 卒業生教員と語る会（2018年11月29日）
教職科目において、2019年度教育実習の事前指導として、卒業生教員による講話が行われた。

新学群の設置——グローバル・コミュニケーション学群

2016年には語学力・コミュニケーション力に重点をおき、原則、全員が留学をするグローバル・コミュニケーション学群グローバル・コミュニケーション学類を開設した。町田キャンパスとともに、プラネット淵野辺キャンパス(PFC)を拠点に始動した(2021年4月に町田キャンパスに移転)。

「英語特別専修」「中国語特別専修」「日本語特別専修」「グローバル教養専修」の4つの専修を設け、教育目的は、高い語学力と特定地域の専門的な知識を強みとして、コミュニケーションによる問題・課題解決を行える人物を育成することとした。具体的には、母語に加え、外国語としての日本語、中国語、英語を高いレベルで習得し、当該言語圏に関する文化や歴史、経済や法政治等を学び、国際的なコミュニケーションの実践を通して成果を出していける人材の育成を目指している。



■ グローバル・コミュニケーション学群の
入学案内パンフレット (2015年)



■ Welcome Guidance (2016年1月10日)
新入生の新生活の準備ができるように、入学が決まっ
ている高校生(67名)と保護者が参加した。



■ グループディスカッションルーム A (2016年6月24日)
グループ学習やディスカッションを中心とした授業が実践されており、
授業外学習のためのメインスペースが設けられている(2020年度まで
使用)。



■ 英語の授業風景
英語で開講される専門科目につなげる英語の授業が展開されている。



■ Brown Bag Caféにおける留学生のプレゼンテーション(2019年11月14日)
留学生が母国のタイについて英語で紹介した。



■ 楽しく中国語会話の授業風景 (2016年4月19日)
中国語を学ぶGC学群学生と、中国出身の留学生別科の学生が共に参加
した、1期生の中国語サロン初回授業の様子。



■ ピアメンターによる留学報告会 (2018年5月24日)
グループディスカッションルーム(PFC3階)において留学体験が語
られた。

V-3

桜美林短大・大学・大学院
大学・大学院

学校行事——入学式と卒業式

本学の入学式、卒業式（学位授与式）は、荊冠堂内のチャペルにおいてキリスト教の礼拝形式で執り行われてきた。セメスター制の導入などにより春学期と秋学期2回の入学式及び学位授与式が行われるようになったが、学生数の増加に伴い3月の学位授与式は1998年度以降、4月の入学式は99年度以降、東京国際フォーラムに会場を移すことになった。入学式、学位授与式ともに式典には大学・短大合同の聖歌隊（2002年にはキリスト教センター所属の「桜美林大学クワイヤー」として再編）や「桜美林大学・短期大学オーケストラ（現 桜美林大学オーケストラ）」による演奏もあり、学生が式典を支える役割も担っている。学位授与式後には学長主催レセプション（1998年度秋学期以降）、入学式後には学生主体の新生歓迎会（2013年度春学期以降）も実施されるようになった。



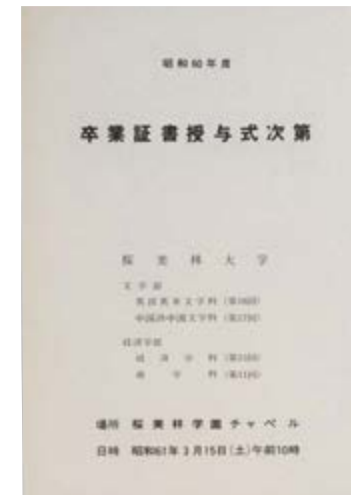
■ 卒業式終了後の一場面（1991年3月）
荊冠堂（当時）前の広場が多くの卒業生や関係者で埋め尽くされている。



■ 2012年度入学式（2012年4月4日）
壇上に桜美林大学クワイヤー、オーケストラが並ぶ。1階は新生、教員席、2回は保護者席。東京国際フォーラムにて。



■ 2014年度桜美林大学新生歓迎会（2014年4月7日）
入学式後に在学生の企画・運営により実施される。



■ 1985年度と2015年度の卒業式次第（1986年3月・2016年3月）
1992年の学位規則の変更により学士が称号から学位になった。そのため卒業式の名称も卒業証書授与式から学位授与式へと変更された。



■ 2002年度桜美林大学 学位・称号授与式（2003年3月）
短期大学を桜美林大学短期大学部と名称変更後初めての式典（於：東京国際フォーラム）。



■ 2011年度春学期学位授与式（2011年9月3日）
荊冠堂内チャペルでの式典。オルガンの伴奏で賛美歌を歌う。



■ コロナ禍での学位授与式（2021年3月15日）
2020年度の秋学期学位授与式は感染対策を講じながら東京国際フォーラムにて挙行された。

V-3

桜美林短大・大学・大学院
大学・大学院

学校行事——礼拝とチャペル

安三は「私が世を去って後も末永く桜美林をして基督教主義の学校たらしめる」ことを望んでいた。その遺志を受け継ぎ、大学では今日もキリスト教主義教育を重んじている。それを代表するのが建学以来、週に一度、荊冠堂（現・旧）で実施されている「チャペル・アワー」である。聖書に基づく講話、讃美歌、祈りという礼拝形式で行われ、学生たちは自由な気持ちで参加している。参加者が思いを深め、自身を客観的に見つめ直す場としてキリスト教センターおよびチャプレンが運営しており、コロナ禍の2020年5月からはいつでも視聴できるよう動画配信形式となった。このキリスト教センターは学生生活を全般的にサポートする組織で、学生たちに常に開かれている。センターの毎年の恒例行事である「オビリン・クリスマス」には、近隣地域の人々も多く訪れる。



■ チャペル（荊冠堂）前のクリスマスイルミネーション（2008年12月）

礼拝を伴う点灯式が行われ、毎年キャンパスの風物詩になっている。



■ 桜美林教会での新入生歓迎礼拝時の説教原稿（1987年4月19日）

川村健爾牧師が本学園幼稚園から大学にいたる新入生を対象に準備したもの。



■ チャペル・アワー説教集『キリストとの出会い』（1982-2021年）

『新約聖書』（日本国際ゲデオン協会贈呈）とともに全新生に配布され、キリスト教に関する科目を履修する際の副読本として活用されている。



■ 荊冠堂内でのチャペル・アワーの様子（2018年）

学生たちはキリスト教入門科目の一環として礼拝に参加する。



■ アジア学院でのワークキャンプの一場面（2018年8月）

農村指導者能力向上のための研修プログラムを担うアジア学院での国際交流ボランティア活動。キリスト教センターと学生キリスト教友愛会が主催。



■ 2011年度春学期学位授与式（2011年9月3日）

春学期学位授与式は荊冠堂内チャペルにて開催。



■ クリスマス礼拝（2002年12月）

短期大学学生たちが参加した旧 荊冠堂内チャペルでのキャンドルサービス。

V-3

桜美林短大・大学・大学院
大学・大学院

学校行事——大学案内・オープンキャンパス

安三は「学園広報が上手であった」というエピソードが伝えられている。桜美林高校が甲子園に出場できるよう尽力したのもその一つであるが、当時の原町田駅から本学園までの道のりにある電柱に入学者募集案内ポスターを貼り、人々がそれに目を向けるよう、在学生たちにそれを見上げたまましばらく立っておくように指示したという。

今日も続く『大学案内』は1966年以降発行され、本学の教育内容やそれを支える施設設備の発展を映し出している。また学園に高校生を招いて行う大学紹介は、1990年代から「オープンキャンパス」という名称で定着し、個別進学相談等も行われるようになった。今日では、来場者である高校生を在学生の視点で案内する「桜インターン」という名の学生スタッフも活躍している。



■ 四年制大学を開学した頃の大学案内（1968年）
大学内施設を写真で紹介し、募集要項を掲載。



■ 中国語版大学案内（1966年）
開学にあたって中国人留学生の積極的受け入れを目指していた。



■ 英語版学園案内（1960年代後半）
大学内施設写真を英語で紹介し開学当初から国際交流を重視していた。



■ オープンキャンパス来場者案内パンフレット（2018年8月）
フロアガイドや各種説明会・体験授業のタイムスケジュールを紹介。



■ オープンキャンパス体験授業（2018年8月5日）
健康福祉学群保育専修「発達心理学って何？～赤ちゃんの能力～」。



■ オープンキャンパス時のキャンパスツアー（2011年5月21日）
桜インターンがガイドをつとめ高校生たちの質問に応えながら学内を案内する。



■ オープンキャンパス時の個別相談（2018年6月10日）
教職員が高校生の進路相談を受ける。保護者とともに来場する高校生も多い。

■ 小田急線多摩センター駅の電飾看板（2007年4月）
小田急線新宿駅、町田駅、多摩センター駅のホームから見える壁に設置された（2m×2m）。

V-3

桜美林短大・大学・大学院
大学・大学院

学校行事——合宿・研修・留学

安三は創設以来、学生と教職員の学問的、人間的ふれあい、学生どうしの友情の育成を重視していた。そのために、合宿や研修を行う施設の充実にも力を注いだ。4学部編成の時代には、新入生の親睦を兼ねた合宿や研修ツアーも恒例の行事であった。教員どうしの交流を深めるために、各種研修は2000年代前半まで宿泊を伴って行なわれることも多かった。

また建学以来、国際交流を中心として外とのつながりを視野にいれたさまざまな連携や活動を行ってきた。1968年には「ムジーク・アカデミー」という音楽専門家による個人レッスンが受けられる機会を設け、正課の授業では学べなかった各種の楽器、声楽等を学ぶ機会を提供した。本学の特長でもある国際交流のプログラムは1980年から開始され、翌81年からは4年間の在籍中に休学しなくても留学ができる制度も設けられた。米国と中国から始まった国際交流も今日では世界中に協定・提携校を増やし、留学経験をもち、グローバルな視野をもつ学生たちを多数育成している。2005年には、中国政府による中国語教育の国際化推進と中国文化の紹介のための国家プロジェクトに賛同して桜美林孔子学院を開設した。



■ Reconnaissance Japan のポスター (1991 年)

海外からの学生を対象とした日本語と日本文化を学ぶプログラムの全文英語表記案内 (A1 判)。

■ オーバリン大学への留学生 (1981 年)

本学初の派遣留学生。写真左から4番目。(OBERLIN SHANSI Memorial Association, Newsletter, No.59)



■ 桜美林大学孔子学院調印式 (2005 年 11 月 1 日)

同済大学と共同して孔子学院を設立するため関係者を招いて調印式を行った。



■ 伊豆オビリンセミナーハウスでの合宿 (1970 年代)

片瀬桜美林ハウスとも呼ばれ、1969年に開設された温泉つき宿泊施設。在学生の家族も利用することができた。



■ 日本語文化学院 (留学生別科) の学生たち

日本での留学を希望する外国人留学生のための日本語の予備教育機関であり学生寮も開放している。



■ ロンドン芸術大学アート&デザインでの海外短期研修 (2020 年)

全10日のうち、5日間はアート実習。作品を現地の学生たちの前で発表する。



■ ムジーク・アカデミーでの個人レッスン (1970 年頃)

写真右は指導者の一人であるギタリストの伊藤翁介。